

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 福留昭 同行調査員 中村朋美

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	簡潔で分かりやすい理念であり、常に入居者の立場にあるホームを目指したもとなっており、地域密着型サービスとしての理念をつくりあげるまでに至っていない。	○	地域密着型サービスとしての理念をつくりあげてを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ホールと、スタッフルームに明示されており、職員は毎朝のミーティングで唱和を行いながら、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、敬老会などの地域の行事や老人クラブの行事にも参加している。近隣の保育園との交流も検討中である。散歩時の声掛けなど、地元の方との交流に、日々取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、評価の意義を理解しており、自己評価は、全職員がそれぞれ行い、それらをまとめている。評価を活かして、職員会議などで話し合い、具体的な改善にむけて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの説明、地域との交流、包括支援センターとの協働などの話し合いがなされ、老人クラブの行事参加を実現させるなど、会議での意見をサービスの質の向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	分からないこと、困ったことなど、何でも市町村担当者に相談している。また、随時、気軽にホームに立ち寄ってほしいと声掛けも行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者や家族の状況に応じて、定期的なホーム便りなどの発送や電話をし、家族来訪時等に、日々の暮らしぶりや金銭管理の報告を行っている。随時の健康状態の電話連絡も行っている。職員の異動などは、家族の来訪時に挨拶を兼ねて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族が何でも言える雰囲気づくりを心掛け、また、年一回の家族交流会や運営推進会議などで家族の意見を聞く機会を設けており、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	夜間体制やユニット毎の状況を考慮し、入居者に配慮しながらユニット間の職員の異動を1年に1~2名行っている。同じグループホーム内なので利用者へのダメージは少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修をはじめ、同列系の法人内の研修や外部研修を受ける機会を確保し、外部研修については報告書や伝達研修がなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、事例等の研修などに参加している。また、地域のグループホームとも気軽に相談できる関係が構築されており、それらをサービスの質の向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族としっかりアセスメントを行い、馴染みの品を持ってきてもらうなどの相談をしながら、本人が徐々にホームに馴染めるように工夫・配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、一方的に介護するのではなく、本人のできる事を見極め、職員がお礼を言ったりすること等で、本人とともに支えあう関係を築けるように取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームの理念に基づき、本人の思いを日常の会話や暮らしの中で把握し、その思いを大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向を確認し、また家族の意向も家族の来訪時や電話等により確認を行っている。毎朝のミーティングや担当者会議などで話し合い、意見を反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うが、モニタリングを1～3ヶ月と状況に応じて行っている。状況の変化については、随時、現状に即した介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望に応じて、主治医やケアマネジャーと相談のうえ、理学療法士などのリハビリや同系列法人の通所リハビリの行事に参加するなど柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者は、全員納得の下、同系列病院がかかりつけとなっている。歯科医やその他の希望する病院の受診も状況に応じて対応して、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期は、基本的に医療機関で対応するように、主治医や家族も交え話し合い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損ねないように、声掛けや対応について留意している。記録等の個人情報の取り扱いも気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調等にも配慮しながら、起床時間や朝食、入浴時間など本人のペースを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一つのユニットだけで調理を行っている。好みや食べたいものは栄養士に相談のうえメニューに取り入れている。簡単な調理の下準備や皿洗い、台拭きなどは、入居者が行っている。	○	食事が楽しくなるように、それぞれのユニット毎での調理が望まれる。また、入居者のできる事を引き出し、一緒に、食事に関する一連の流れを楽しめる工夫に期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回となっている。時間などは、一人ひとりの希望に配慮している。	○	入浴日以外の希望にも随時対応できるような工夫が望まれる。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔の話や、日常的に感謝の言葉を職員が伝えることで、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように配慮している。一人ひとりの状況に応じた役割などの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見やそうめん流しなどの行事や、散歩や買い物、地域の行事、通所リハビリなど日常的に外出できるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関には施錠していない。常に、入居者の状況を把握できるように配慮し、外出傾向がある場合は職員も同行している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署を交えて日中の避難訓練は行われている。避難訓練時には、近隣の方に避難訓練を行う旨の話をしている。台風時等の対応手順書もある。	○	夜間想定訓練及び地域住民参加のもと、避難訓練を行うことが望まれる。また、災害用備蓄についても検討が望まれる。

グループホーム協愛

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が管理しており、食事摂取量も記録されている。水分補給も毎日6～7回ほど行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光などにも配慮されており、広々と開放感がある。季節の装飾品などもあり、居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に使い慣れたものを持参するように声掛けを行っている。居室には、仏壇、人形、家族の写真などが持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。